



令和5年度 — 仙台商工会議所青年部

# 政策提言書

Sendai YEG 2023-2024 Policy Proposals

仙台商工会議所青年部  
令和5年度 会長 守川雷太



## ごあいさつ

私たち仙台商工会議所青年部は、仙台経済の振興・発展に寄与することを目的に設立され、令和元年度には「仙台の『未来』は私たちが創る!若さ、情熱、バイタリティーで仙台の『未来』を切り開こう!」という中期ビジョンを策定いたしました。このビジョンを実現し、次代の仙台経済の牽引役として影響力のある団体へと成長するため、会員間の取引の活性化や資質向上等に日々努めております。

政策提言活動は、ビジョン策定同様、令和元年度から取り組みを開始し、今年度は提言の柱を「シビックプライドの醸成」といたしました。これは、ビジョンに掲げる「仙台のより良い未来を創る」ために、今我々がすべきことを検討した結果、辿り着いたテーマです。

今年度の政策提言活動の特徴は大きく三つございます。

まず一つ目は、政策提言活動の開始から5年目という節目の年であることから、過去の提言内容を振り返り、一部再提言をいたしました。今後も内容に応じて提言を繰り返し、実現を図って参ります。

二つ目は、行政の皆様との連携強化です。今年度は新型コロナウイルス感染症の位置付けが5類に移行したこともあり、「交流」を軸に活動して参りました。その中で、仙台市、宮城県、そして東北経済産業局の職員の皆様と地域の課題や未来について意見交換を行う「伊達な風会議」においても、例年以上に近い距離感で交流を図ることが出来ました。加えて、毎月の委員会活動にもご参加をいただき、多くのアドバイスをいただくことも出来ました。行政の皆様と普段から気軽に意見交換ができる関係構築を一步進められたことは、会員企業にとっても大変有益であったと感じております。

三つ目は、視察事業を実施したことです。これまでも政策提言に関する勉強会等は実施して参りましたが、今年度は、岡山商工会議所青年部の皆様が政策提言活動を通して実現された「岡山市民の日」事業を視察いたしました。現地現物でしか得られない多くの学びを持ち帰ることが出来ました。

令和5年度の政策提言書は、令和5年度スローガン「発せよ!~わたしの意志、みんなの力~」の通り、早坂啓委員長を中心とした行政交流委員会のメンバーが意見を発し続け、全員で力を合わせたことで、完成いたしました。仙台の未来を明るく元気にしたいという強い思いのこもった提言内容となっております。是非ご一読くださいませ。

最後に、この政策提言書を纏めるにあたり多大なるご協力を賜りました各行政機関の皆様、仙台商工会議所の皆様、視察を快く受け入れていただきました岡山商工会議所青年部の皆様に心からの感謝と御礼を申し上げ、わたくしからの挨拶とさせていただきます。

仙台商工会議所青年部  
令和5年度行政交流委員会 委員長 早坂 啓



## はじめに

仙台商工会議所青年部の政策提言活動は5年目を迎えます。政策提言はYEGにとって一丁目一番地であり、豊かで住みよい郷土づくりに貢献しながら、自己研鑽だけでなく、未来の街を考えられる有意義な活動です。

私が委員長という大役をお預かりし、早坂勇人副会長にどのような政策提言に、また委員会にすべきかを相談いたしました。場所は、国際センター駅前の広場、この広く綺麗な広場の存在を私は知りませんでした。この場所を仙台の企業や学生、市民が自主的に活用できないものか？アートや音楽、ストリートカルチャー、グルメなどのきっかけから市民が総合的に街の未来を考える日があればよいのではないかとアイデアを頂いた場所です。

しかし、それではToDoのやり方です。これらの課題や解決策は民間の我々よりも行政の方々がお考えであり、我々により深く、未来志向で、経済団体として経済性を意識しながら委員会活動を通しどうなりたいかのToBeを想像しました。

一つの答えとして、仙台市民が仙台を「誇り」とするシビックプライドを抱くべきだと思い至りました。

シビックプライドが醸成された先にあるのは、他人ごとではなく、自分ごととする人が増えた仙台です。誰かが創っている仙台ではなく、民間、行政、学生など立場に関係なく、仙台の未来は私たちが創る。そんな人を増やし、その自覚と行動をした先の仙台経済はまだまだ発展できるはずです。

私は、仙台や宮城が好きです。そして日本という国が好きです。

未来に紡いでいくために仙台を知り、行動し、広げるためのきっかけとなるシビックプライドの醸成を提言いたします。

結びになりますが、作成にあたり多大なるご協力を頂きました各行政機関の皆様、岡山市民の日実行委員会の岡山YEGの皆様、仙台商工会議所職員の皆様、仙台YEGメンバーに感謝申し上げます。

そして令和5年度行政交流委員会の皆様、副会長、副委員長、ともに活動出来たこの一年とこの政策提言書は私の誇りです。心から感謝申し上げます。

# 令和5年度政策提言書作成に至る経緯

令和元年度より仙台商工会議所青年部(仙台YEG)は政策提言書の作成を通して、より良い郷土づくりに貢献すると共に、以下3点の実現を目指している。

- ①YEGが政策提言団体であることを行政機関に周知し、地域における仙台YEGの存在意義を高める。
- ②政策提言の作成過程において、地域の課題について行政機関と忌憚なく議論し、内容をまとめていく中で、官民の連携を深める。
- ③政策提言を通じてより良い郷土づくりに向けた活動を推進していくことで、仙台YEGの存在意義を地域の方々にご理解いただき、地域に必要とされる団体となる。

※引用：仙台商工会議所HP <https://www.sendai-yeg.jp/about/proposal.html>

以来、4年間にわたり提言を行ってきた内容は以下の通り。

## 仙台YEGによる過去の政策提言

年度	テーマ	提言内容
令和元年度	四方よしな街づくり	①「記憶に活きる仙台 eye プロジェクト」～郷土教育からの仙台の経済活動の活性化～ ②インバウンド観光客のさらなる誘致に向け、体験型施設街の設置に向けた「仙台古都プロジェクト」 ③夜間のアーケード通りを活用した恒常的な夜市の開催に向けた「仙台夜市プロジェクト」 ④郷土愛あふれる「伊達な高校生」育成プロジェクト ～高校生が地元のことをもっと知るきっかけとなる起業体験プログラム～
令和2年度	<四方よし> もっと住みやすい、 もっと働きやすい街に 生まれ変わる	①屋外ではFree Wi-Fi、ビル内では民間のWi-Fi「どこにいても、つながる街」 ②地方拠点強化税制等の減税・助成を上積み「企業が移転したくなる街」 ③企業誘致にワーケーションを積極活用「ワーケーション推進の街」に ④ビル・建物開発の規制緩和で、「人も企業も集まりやすい街」 ⑤既存ビルの防災機能向上を伴うリニューアルへの補助 「災害に強い、安心して働ける街」
令和3年度	コロナ収束後の仙台の 未来、地域経済の発展	①DXに取り組んだ企業を仙台市が表彰するグランプリの創設 ②「多様性先進都市仙台」の実現
令和4年度	仙台に誇りを持ち、 自慢できる街にする ために必要なこと	①学生の地元定着 ②体験型ガイドツアー ③伊達の本締め

※過去の政策提言は(<https://www.sendai-yeg.jp/about/proposal.html>)から確認可能。

令和元年度に提言した「仙台夜市プロジェクト」と同様の方向性の夜市構想が令和6年度中には試験実施される見通しであることや、令和4年度に提言した「伊達の一本締め条例制定」は条例化には至っていないものの、各種集会の中締めが伊達の一本締めであることが非常に多くなっていること等、これまでの提言内容は地域の発展に向けて着実に実現してきている。こうした過去4年分の提言内容を踏まえて、委員会メンバーで議論した結果、令和5年度はより良い仙台を目指すための提言を行っていききたいという考えに至った。

本年度の委員会活動である、岡山YEG主催の「岡山市民の日」の視察や「伊達な風会議2023～明日につなげる官民連携～」を経て、さらに上述の思いを強くしており、仙台の未来を考えたときには地域や土地に対する誇りを持つという観点が必要ではないかと感じている。ゆえに本年度は「シビックプライドの醸成」を目的に提言をする。

## シビックプライド醸成がなぜ必要なのか？

### ●シビックプライドとは

「シビックプライド」とは、都市に対する市民の誇りを指す言葉であり、「郷土愛」や「まち自慢」といった感情とは異なり、単なる愛着表現ではなく、「この都市をより良い場所にするために自分が関わっている」といった当事者意識と自負心を伴う概念である。近年、日本でもまちづくりや地域づくりにおいて、「シビックプライド」という言葉が使われるようになってきている。自治体も、「シビックプライドを持つ住民は、まちづくり・地域づくりの大きな資源になる」という考え方のもと、シビックプライド醸成の取り組みを進めており、全国的にその重要性が認識されている。

### ●仙台市、宮城県の現状と背景

現状、幸福度ランキングでは宮城県が36位・仙台市が政令指定都市で総合9位(※1)となっている。また、仙台市では110万人の内、毎年4万人程度が入れ替わっており、仙台市の総合戦略にも記載がある通り、転出する若者世代の流れをどう変えるかが、仙台市の人口減少対策の重要なポイントとして挙げられている(※2)。公益社団法人日本都市計画学会によると、人口流出の要因として「市民の地域に対する関心の低さ」が挙げられている。(※3)

※1 引用：一般財団法人日本総合研究所."寺島実郎監修『日本でいちばんいい県 都道府県別幸福度ランキング』を活用した政策の進め方。  
<https://www.jri.or.jp/wp/wp-content/uploads/2022/10/9b9def7f9e89c6f12c1f647f01787f26.pdf>. 2022.(引用 p.12-14)

※2 引用：仙台市."仙台市まち・ひと・しごと創生総合戦略第2部 人口ビジョン"  
<https://www.city.sendai.jp/machizukuri-kakuka/shise/zaise/kekaku/documents/sougousenryaku.pdf>. 2020.(参考 p.6-27).

※3 引用：公益社団法人日本都市計画学会."都市計画論文集 vol57 No.3,2022年10月 地方自治体の都市政策への市民満足度がシビックプライドに与える影響-富山県小矢部市を事例として-".[https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/57/3/57\\_1156/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/57/3/57_1156/_pdf). 2022.(参考 p.1-2).

加えて、仙台市民が、仙台市の良いところを語れないという事実もある。令和5年開催の「伊達な風会議2023～明日につなげる官民連携～」でも同様の課題感が企業・行政の双方から寄せられていた。仙台市を他の地域と比較した際、好感が持てる点が多々あるにも関わらず、定量的に優位性を示しづらいなど、様々な意見があげられている。そのため、シビックプライドの醸成を契機にしながら、仙台市民はもちろん、市外の方々にも多面的に地域を知ってもらい、地域を考える機会を創出することで、前述の課題感の解消にも寄与したいと考えている。

## ●シビックプライドの醸成により期待される効果

上述の通り、地域を知る機会と地域を考える機会が創出されるほか、以下の様な効果も期待できる。

### ■定住・移住の促進

シビックプライドが高い地域では、住民が地域に愛着や誇りを有しており、定住や移住を希望する傾向がある。また、住民同士の関係性（つながり）も強く、地域社会への満足度も高い。結果として、転出率が低くなるという研究結果もある（※4）。定住や移住が促進されることで、地域の人口増加につながり、少子高齢化の抑制に効果が期待できる。

### ■地域活性化・経済成長の促進

住民が課題解決に積極的に取り組む傾向も強い。課題を自分事として捉え、地域の活性化につながる様々な取り組みが生まれやすい。地域がより魅力的な場所へと変化していく可能性があり、仙台の交流人口増やインバウンド集客にも貢献する可能性がある（※5）。

### ■行政に対する信頼の向上

行政に信頼を寄せている傾向も強い。地域を良くするパートナーとして行政を認知し、共同体としての意識が育まれる可能性もある。行政の施策に対する理解や協力が得られやすくなり、行政の円滑な運営につながる。

※4 参考：公益社団法人日本都市計画学会."都市計画論文集 vol57 No.3,2022年10月  
地方自治体の都市政策への市民満足度がシビックプライドに与える影響-富山県高岡市に居住する高校生を対象として-  
".[https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/57/3/57\\_933/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpj/57/3/57_933/_pdf). 2022.(参考 p.5-6).

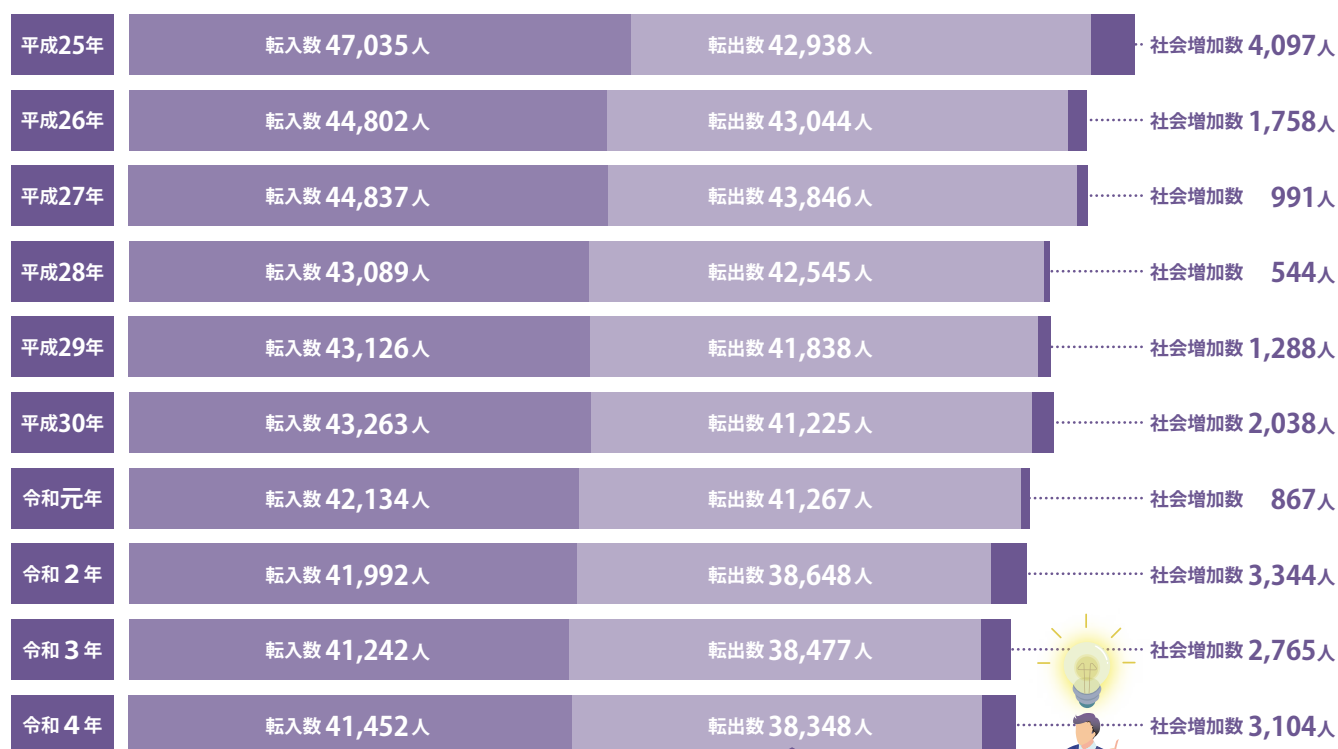


※5 参考引用元：[https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kankou/1026674/city\\_promotion/1026756/1028407.html](https://www.city.sagamihara.kanagawa.jp/kankou/1026674/city_promotion/1026756/1028407.html)

総じて、シビックプライドの醸成に取り組むことは地域が抱える課題解決に対してメリットが大きい。また、後述する具体的な提言内容にもかかるが、取り組み内容は地域ブランディングを推進することにも近しく、仙台市が掲げている「仙台経済COMPASS～2030年の仙台を見据えた羅針盤～」の実現にも寄与すると考えている。

前述したように仙台市は毎年約4万人が入れ替わっている(※6)。仙台に留まらず市外に出て行ってしまった場合でも、シビックプライドを持っていれば移った先でも継続して地域とかかわりを持つことや、場合によっては魅力を発信してくれるなど、長期的に良い波及効果が見込めると捉えている。

### 【仙台市における転入数、転出数、社会増加数の推移－全市(平成25年～令和4年)】



転出した人のシビックプライドが高ければ仙台のPR大使に!?

※6 引用：仙台市."II 住民基本台帳人口(日本人住民)による社会動態"

[https://www.city.sendai.jp/chosatoke/shise/toke/jiho/jinko/documents/r4\\_kaisetu2.pdf](https://www.city.sendai.jp/chosatoke/shise/toke/jiho/jinko/documents/r4_kaisetu2.pdf). 2022.(参考 p.1-2).



## ●実現可能性について

シビックプライドの醸成は、民間の力だけでの実現は難しい。ゆえに、行政と連携して進めるべきと考える。コロナ禍からの脱却、経済再生が問われる中、物価高騰、人材不足など新たな課題に直面している今こそ、官民一体となって、仙台経済を成長させたい。双方向の交流、さらには市民を巻き込んで推進していくことを理想とし、実現へ向けて歩みを共にしたいと考えている。

冒頭にも記載した通り、まずは地域を知ることが一歩目になると捉えている。地域を知ることを通じて、取り組まれている施策や、そこに込められた思いを知ることにより、当事者意識をもって主体的に参画する人たちが増えていくことを期待したい。





# シビックプライド醸成のための具体的な提言

具体的には

- ① 仙台の未来を考える「仙台市民の日」の制定
  - ② 地元企業に対する「地産地消」支援と「地産外商」支援
  - ③ 各行政の課題解決策や施策を共有する「シンポジウム」の実施
- という3要素を、シビックプライドの醸成を目的に提言する。

## ①【仙台の未来を考える「仙台市民の日」の制定】に関して

### — なぜ提言するのか

公益社団法人日本都市計画学会によると、都市空間形成と観光振興、教育推進に関する政策への満足度向上が地域愛着の構成要素であるシビックプライドを醸成し、それによって地域アイデンティティや参画意識などが統計的に増加する因果関係が示された。同時に、市民の社会参画の機会を創出し、当事者意識を育む政策がシビックプライドの醸成において最も有効であることが指摘されている(※7)。そのため都市空間形成と観光振興、教育推進の3つの市民満足度を向上する必要がある。「仙台市民の日」では教育推進と観光振興分野のイベントを開催することで仙台市が行っている都市空間形成推進に対して市民が知るきっかけ作りとも連動させる。

※7 参考：公益社団法人日本都市計画学会."都市計画論文集 vol57 No.3,2022年10月  
地方自治体の都市政策への市民満足度がシビックプライドに与える影響-富山県小矢部市を事例として-"  
".[https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpjij/57/3/57\\_1156/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/journalcpjij/57/3/57_1156/_pdf). 2022.(参考 p.7-8).

### — 具体的コンテンツ案

市民の日における具体的なコンテンツ案は、以下を検討材料として提言する。

#### ■教育推進の観点

- ・小学生を対象とした郷土教育を目的とした杜の都Kidsウォークラリー(※)
- ・大学生、専門学生、地元企業を学生が知る機会の創出(※)
- ・Sendai Digital Transformer Company グランプリ(令和3年度政策提言)
- ・郷土愛あふれる「伊達な高校生」育成プロジェクト(令和元年度政策提言)

## ■観光振興の観点

- ・民間主体体験型観光ツアー（令和4年度政策提言）
- ・仙台夜市プロジェクト（令和元年度政策提言）
- ・（メディアを通じて）全市民向けに相对比较が出来る「仙台日本一クイズ」
- ・仙台市、宮城県の各施設を市民へ無料開放
- ・ワーケーションを推進する為のシンボリックイベント（令和2年度政策提言）

※「※」は既に仙台YEG事業でも実施している。

### 【補足】

#### ●仙台日本一クイズに関して

仙台のペDESTリアンデッキは日本一の床面積を誇る。しかし、仙台市民の認知度はあまり高くない。こういった定量的な優位性の事実を絡め、認知する機会を設けながら、「仙台市が子育て環境日本一になってほしいね」の様な未来の話をする契機になることも期待したい。

具体的には仙台が日本一だという内容や全国でベスト10（優れている点）に入っているもの、その他オンリーワン（希少であったり有名人が絡んでいるような内容）であるような内容で構成されたクイズを想定。クイズに参加することで驚きとシビックプライドの醸成を叶えられるイベントにできると考える。

開催の形式は2パターン考えられ、1つ目は市民参加のイベント（四季の祭りなどの事業）のステージ企画として実行するという方法。数百人以上の規模で会場の一体感を感じながら、地元の優れているところを知る機会にできる。

2つ目は杜の都Kidsウォークラリーなどの移動型のイベントにて、チェックポイント毎にクイズを用意する方法。正解数に応じて簡易な景品が得られる事も視野に入れたい。後述する施設無料開放などと組み合わせ、各施設にクイズを設置し、スタンプラリー形式で一定期間開催するという方法も有効であると感じている。

年々クイズのレパートリーを増やし、10年程度ナレッジが蓄積したら冊子や本としてまとめ、仙台の優れているところを体系的に知ることが出来る資料として活用することも期待したい。

#### ●施設の無料開放について

仙台市営地下鉄・バスの日無料開放と組み合わせ、該当交通機関で行ける市営施設も無料開放することにより、施設の利用を促す。訪れるハードルを下げることで、利用のきっかけをつくれると考える。また、実際に訪問し、良さを知ること複数回の利用を促すことや、地域の歴史・文化に関する接点を増やすことで地域への興味関心を高められることもメリットと考える。

※候補となる主な仙台市の有料施設

仙台北跡、仙台市博物館、仙台市動物園、仙台うみの杜水族館、仙台市科学館、体育館やプールなどの運動施設、仙台市野草園、仙台市秋保大滝植物園

## — 他地域の事例

- 神奈川県：相模原市は条例として制定。「さがみはらみんなのシビックプライド向上計画」を掲げている。KPIとしては継続居住の意向や認知度などが設定されており、そのために外部への発信やイベントの開催、ファンサイトの開設が為されている。
- 岡山県：岡山市民の日を6月1日に制定している。子どもから大人まで、みんなで岡山市の魅力について考える「愛♥(ラブ)おかやま川柳」を開催(岡山商工会議所青年部が実行委員会として運営)。



「愛♥おかやま川柳」表彰式。岡山市の魅力を題材にした川柳を通して岡山への郷土愛を醸成している。



岡山市民の日PRイベントとして、「令和のぼら寿司」としてブランド化を進める「晴寿司」の無料配布

## — 結果として

毎年、仙台YEGでも人口流出や若者の地元定着に対して強い懸念を持ち、仙台市の総合計画からも同様の懸念が見受けられる。その課題に対して例年の政策提言書からも様々な解決策を提言している。また既に教育推進にもなる杜の都Kidsウォークラリーや学生の地元就職支援の為の事業を行っている。しかし、実施している事業だけでこの課題を解決する事は非常に難しいと感じている。

その為「仙台市民の日」を制定する事は、我々企業側と行政が手を取り合うシンボルにもなり、仙台YEGが過去行ってきた政策提言を具体的に推進していけると考える。

その結果、仙台市民が、仙台の未来をより自分事として捉え、他人事にしなくなり、少なくとも「何を誇っていいかわからない」という機会は減少していき、シビックプライドの醸成もより加速していくと考える。最終的に人口流出や若者の地元定着という仙台市の大きな課題の解決になる。

## ②【地元企業に対する「地産地消」支援と「地産外商」支援】に関して

### — なぜ提言するのか

シビックプライド醸成は「食」が重要な位置づけになる(※8)。例えば、「仙台に何があるの」と聞かれた際に「牛タン、ずんだ」等の回答が多くなる。これは、仙台市民はもとより、市外の人からもその様な認知が取れている状況であり、市民における誇りに思うものに該当する。したがって「仙台の〇〇は美味しいよ、すごいよ」の〇〇に該当するものを増やしていく事は市民の誇りを増やしていく事と同義である。その為、まずは仙台市民への政策として地産地消をより活性化することで市民が仙台のものに触れる機会を増やし良さを知る。そして、地域の誇りを増やすことが出来る。当然市内経済の好循環も作り出す事ができる為、その側面から働き手のシビックプライド醸成にも繋がる。農林水産省が掲げる地産地消の基本理念の中には「社会的気運の醸成及び地域における主体的な取り組みが促進される」と記述されている(※9)。また、シビックプライドの定義の中に「自分自身が地域の構成員であると自覚し、さらにまちを良い場所にしていこうとする「意志」が含まれる」と記載がある(※10)。地産地消の理念がシビックプライドの定義を包含していることから、地産地消の推進がシビックプライド醸成に寄与することに疑いの余地はない。

経済的側面では日本の都市特性評価2023によれば仙台の経済・ビジネス指数は136都市のうち53位であり(※11)、これから迎える人口減少によるマーケットの縮小を考えると仙台市の事業者として将来の予測をしながら商いを行っていく必要がある。地産地消のみの促進だと将来的に供給過多になり生産者の売上低下も予想される。その為外部需要への供給も必要不可欠である。しかし、ただ東京等中央都市部の下請け的な発想ではなく、企業や地域のブランド力を強化し、価格が一定担保された状態の地産外商として進める必要がある。そうする事で、「〇〇と言ったら仙台」という状態を築くことが出来るため、第一次産業の生産者や第三次産業のレストランや小売店、その中間の第二次産業の企業も恩恵を受ける事ができる。そしてその状態もまたシビックプライドの醸成に大きく寄与する事は間違いない。

最終的に「地産地消と地産外商」両輪を推進していくことで、  
仙台市民が仙台のもの良さに気付く(地産地消)→産業になる→仙台市外にもマーケットができる(地産外商)→外貨獲得→仙台がより潤う→生産性向上→より良いものができ、良さに気付く(地産地消)→etc

というエコサイクルシステムを作りたいという考えが提言の背景である。

※8 参考：東京理科大学 伊藤 香織."特集論説 都市・地域解析と計画行政 都市への思いをモデル化する"  
".[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jappm/43/3/43\\_7/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jappm/43/3/43_7/_pdf). 2020.(参考 p.2-6).

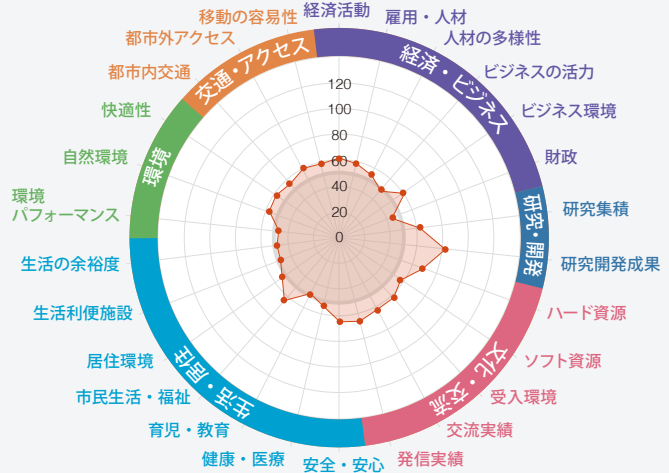
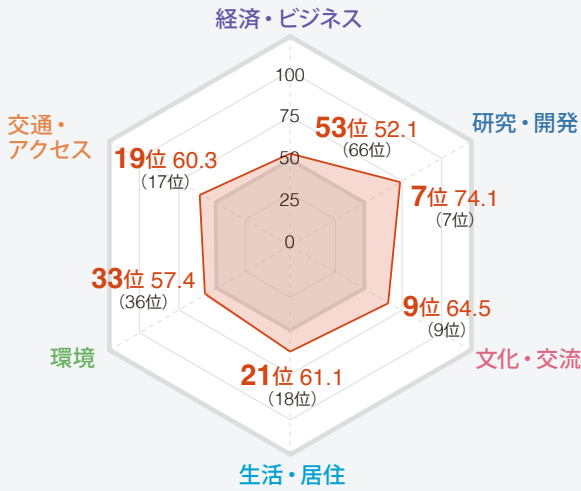
※9 引用：農林水産省."地産地消の推進について"  
".[https://www.maff.go.jp/j/nousin/inobe/chisan\\_chisyo/attach/pdf/index-77.pdf](https://www.maff.go.jp/j/nousin/inobe/chisan_chisyo/attach/pdf/index-77.pdf). 2023.(引用 p.2).

※10 参考：東京理科大学理工学部建築学科教授 伊藤 香織."シビックプライドを醸成するまちと市民の接点"  
".[https://www.toshi.or.jp/app-def/wp/wp-content/uploads/2019/03/report180\\_3\\_2.pdf](https://www.toshi.or.jp/app-def/wp/wp-content/uploads/2019/03/report180_3_2.pdf). 2019.(参照 p.1-3).

# 日本の都市特性評価2023による仙台のポジション

分野別の順位・偏差値

指標グループ別の偏差値

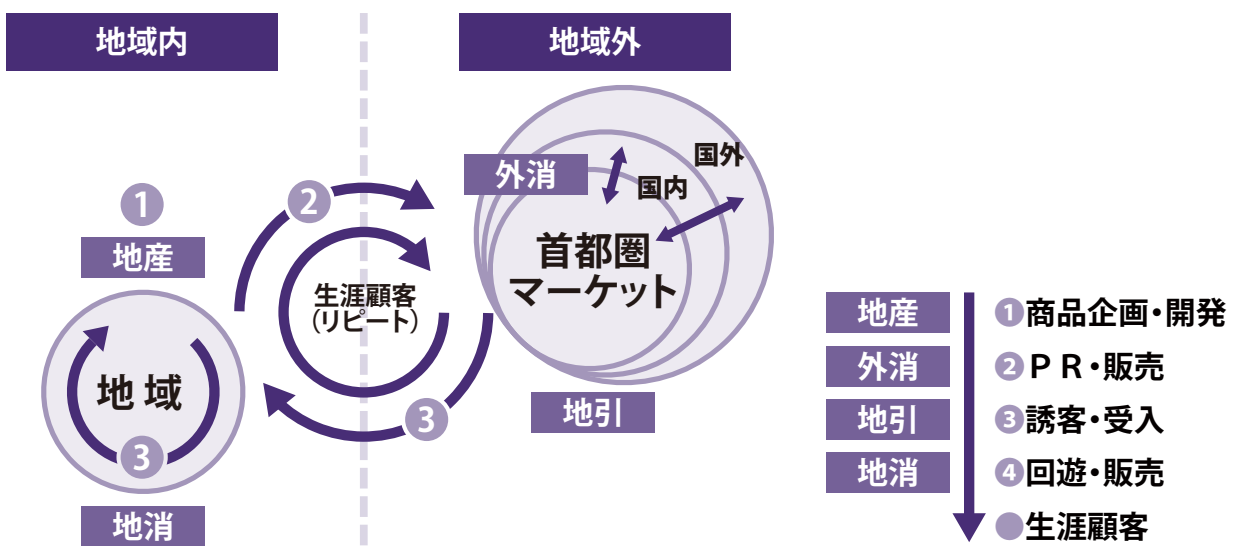


※11および上記図引用：森記念財団."日本の都市特性評価2023".[https://mori-m-foundation.or.jp/pdf/jpc2023\\_summary.pdf](https://mori-m-foundation.or.jp/pdf/jpc2023_summary.pdf). 2023.(引用p.12).

## — 具体的な提案

域内の商圈で生産と消費を行う「地産地消」と、域外で消費を行う「地産外商(外消)」の両取り組みに関する支援を進めていくことを提案したい(※11)。

## 地方創生プロジェクトにおける事業者視点の4ステップ 地産→外消→地引(ちいん)→地消サイクルの確率=生涯顧客獲得



※11イメージ図

上記観点から、次の様な取り組みを提言する。

## 地域ブランディング推進のためのグランプリ制度を確立

地域ブランディングを介した経済的な成功は複数事例確認されている。仙台市においても「地域商社を活用したブランディング及び消費拡大支援事業」に取り組まれているが、より多面的関与することで、加速できないかと考えた。例えば「仙台市認定ブランド」の様なあらたなブランド制度の制定や、同ブランド認定を決定するためのグランプリ制度の確立などを想定している。東北経済産業局によると東北地域の地域団体商標は東北管内で60件確認されているが、青森14件・岩手7件・宮城6件・秋田11件・山形11件・福島11件という分布になっており、宮城県は他県と比して少ないことがわかる(※12)。「仙台」という名称を使っているのは5/6件という状況でもあるため、地域団体商標を取得を加速させるための仕組みづくりや支援が必要と考える。

## 「仙台市スタートアップ大賞」など、仙台市公認のコンテスト開催

地産地消の仕組みを、より加速させる施策の一つとして同コンテストの開催を提案する。詳細は「【各行政の課題解決策や施策を共有する「シンポジウム」の開催】に関して」で触れるが、スタートアップ企業を支援する制度が充実しているにもかかわらず、特定の一部にしか知られていない実態がある。仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会など、産官学金が連携し、素晴らしいプラットフォームが形成されている都市であることをより広く周知することは、起業家の輩出や誘致につながる可能性があると考えている。一案として、仙台市が社会的に意義がある事業を手掛ける企業に対して表彰する制度を提案したい。企業名が広く認知されることはもちろん、スタートアップ企業がさらに増えていく機運が高まっている現状を考えると、「仙台市がスタートアップを応援(支援)している」ということを広く認知してもらうことにも価値があると考えている。

## 仙台市民の日のコンテンツとして「地域商品を知る」機会を設ける

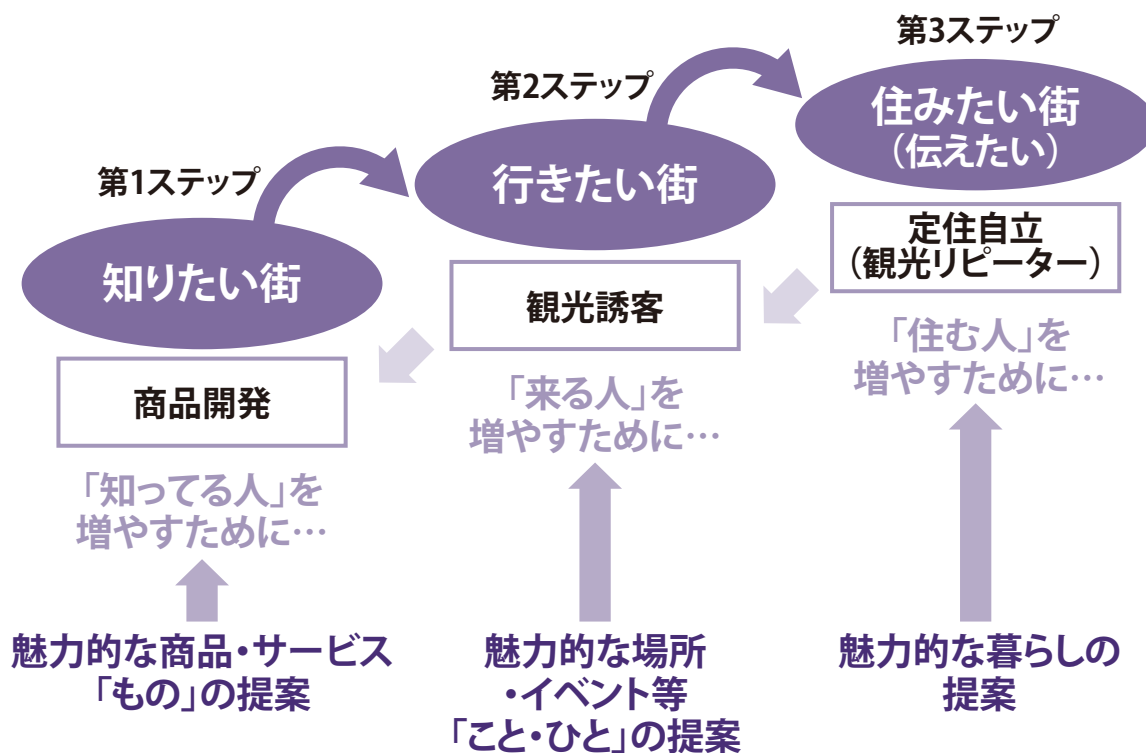
全国的に有名な仙台の銘産品・ソウルフードを気軽に味わえる機会を設け、商いの機会に。仙台市民の日と連動し、地産地消を押ししている飲食店や商店街を練り歩くウォーキングラリーなども想定。上記取り組みは、広義的に「地域ブランディング」に類されるものと捉えており、地域活性化と交流人口の拡大の二側面においても有用と考える(※13)。繰り返しになるが地産地消を推進することは、仙台市民にとってはそのまま「地元企業を知る」ことにつながり、地産外商を行うことは、仙台市以外の商圏で売上を獲得することの実現や業績の向上につながる。また、商材によっては「仙台に住みたい」「遊びに行きたい」と考える人が増える可能性もあり、多方面にポジティブな効果を及ぼすと考えている。

※12参考：経済産業省東北経済産業局。「TOHOKU地域ブランド」。

[https://www.tohoku.meti.go.jp/chizai-enet/support/brand/showcase\\_brandmap202301.pdf](https://www.tohoku.meti.go.jp/chizai-enet/support/brand/showcase_brandmap202301.pdf). 2023.

※13参考：※13参考：大阪市立大学 経営学研究科 小林 哲。「コロナ禍での地域ブランディング - 地方活性化策の点と線」。[https://www.jstage.jst.go.jp/article/marketing/41/1/41\\_2021.030/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/marketing/41/1/41_2021.030/_pdf). 2021.(引用 p.10 - 12).

## 地域が「稼ぐ力」を身に着けるために実施



### — 結果として

企業において、自分たちの商品・サービスが広く認知されることにはポジティブな効果がある。社員の組織に対する肯定感や地域貢献感が醸成され、エンゲージメントが高まることも期待できる。また、地域内での企業ブランディングの向上に伴った「積極的な地元企業への就職」「地元企業の消費に対して前向き(協力的)」なども相乗効果として期待される。

結果、「経済活力のある企業＝業績の良い企業」を増加させるサイクルを構築することができる。将来的には、成長ステージに応じた支援を整備することで、中長期的な経済強化につながり、地域が継続性をもって活性化していくことも期待できる(例：年商1億、年商10億、年商100億、上場など各ステージに応じた支援、など)。





## — より良い仙台を実現するために、シンポジウムの開催を!

### 【目的】

- 企業と行政がお互いをより深く知り、繋がりを強め、官民連携を促進
- 仙台の企業が仙台でビジネスしやすい環境をより促進
- 行政側が目指す姿へ前進
- 仙台市、宮城県、東北経済産業局の支援内容で発生している  
カニバリゼーションを解消

シンポジウム開催の目的は上記となるが、シンプルに言えば、互いを知る事に尽きる。時間とお金に余裕が無い企業ほど知らないことが多く、知らなければ行動が自助努力だけとなってしまう、成長が鈍化する傾向は仙台YEG内会員企業でも感じるところである。

## — シンポジウムの具体的なコンテンツ

- 行政側の施策を知る機会とし、各種支援情報を得る機会の創出
  - 行政の方々の施策紹介をより深く、詳しく行っていただく
  - 補助金、助成金などの実際に活用された成功事例を知る
- 企業側の課題を行政にダイレクトに伝える機会の創出
  - 行政側も企業側の課題のヒアリング(伊達な風会議同様)
- お互い(行政、企業側)の施策を紹介し合い、認め、褒め合う

上記は、一例だが、知る機会が確実に増えることで、感謝というマインドも発生し、仙台をよりよくするための行動を模索できると考える。つまりシビックプライドが醸成され、さらにそれが加速すれば仙台はまだまだ成長出来ると考えている。

また「伊達な風会議2023」では、約1時間のディスカッションで以下のようなアイデア、答えまで出すことが出来ている。この頻度を高め、より濃いものにしていけば、仙台はシビックプライドが高い街にもなり、様々な課題をともに解決するアイデアはより出ると考えている。

## ■ 以下は「伊達な風会議2023～明日につなげる官民連携～」で実際に

### テーマ：① 官民ともに人手不足などの課題解決のために、デジタル化に本気

#### ① あなたの職場でデジタル化に取り組む理由、課題は？

- 従事者のリテラシーが低い
- 責任所在が難しい
- ステークホルダーのデバイススペック不足
- アプリが多くなる
- 情報漏洩の危険性

#### ② あなたの職場でデジタル化をして成功もしくは失敗した事例は？

- 【成功】
- スケジュール管理
  - タクシー配車のクラウド化
  - 広告の定量管理
  - ハローワークがメール使えるようになった
- 【失敗】
- 農家にDX進めたが使われてない。
  - デジタル化推進についていけず退職
  - いまだにFAX

### テーマ：② 郷土愛やシビックプライド醸成のためにできること

#### ① あなた自身が誇りを持てる、または周囲にお勧めできるコト・モノは何か？

- 学術機関が充実している
- スポーツ団体が多い
- 街並みがキレイ
- コンパクトシティ
- 穏やかな人が多い
- すごしやすい気候
- 歴史ある街
- 七夕など有名なお祭りが多い
- 地下鉄がある
- 近隣県へのアクセスが良い。仙台駅の充実

#### ② あなたが誇りを持ってないような社会課題だと思えるようなことは？

- 控えめ。自分たちが仙台を田舎だと思っている。
- 観光地や体験コンテンツが少ない
- 雇用条件の悪さ
- 居心地の良さが定量的な数値で表しづらい
- いじめが多い
- 交通が不便（表示含み不親切）
- FreeWi-Fiがない
- 仙台の歴史を知らない
- 仙台発の大企業が少ない
- 運転マナーの悪さ

### テーマ：③ 行政と仙台YEG企業人が継続的な交流をするには

#### ① あなたの立場から行政、企業の交流を通して得たいメリットは？

- 【企業】
- 行政側の視点を知りたい
  - 補助金
  - 職員との交流
  - 社業に繋がる情報
- 【行政】
- 地域社会の実情や現状把握
  - 現場の声を聞きたい
  - 行政と企業の考え方のギャップを埋めたい
  - アイディア提供

#### ② ①を弊害している理由があるとしたら何か？

- 窓口が多すぎる
- 良くも悪くも縦割りなところ
- 部署が変わる＝人が変わる
- 継続性がない
- 接点がない
- 現場を知ることがあまりない
- 何事もなく過ごすことが良いという雰囲気
- 前例がないと進めず、責任の所在をぼやかす県民性

# 出た意見(一部抜粋)

## で取り組むのに必要なこと

### ③行政として、民間として、それぞれの立場で求めている情報は？

【行政】 \_\_\_\_\_

- 具体的に何して欲しいか知りたい
- 支援後の結果
- 求めているオープンデータ

【民間】 \_\_\_\_\_

- 支援情報
- 業種ごとのまとめ情報
- AIを導入した効率化

### ④官民が協力すれば解決できる課題や生産性の高い仙台を目指す上でできることは？

- わかるくんBOTの作成  
コミュニケーションエラーやコストを最適化する意味で作成。縦割りで行政の人も知らない情報があり、どの課に回せば良いかわからない場面が多々ある。そういう時の最適解もできる。問い合わせ対応などのコミュニケーションコストも著しく減る。

### ③仙台の良いところだけではなく、欠点や弱点なども「知る」「体感する」には、何をすれば良いか？

- (比較することでわかることがある、という観点から)東北六県良いところ体験ツアー
- 県外の人と意見交換会
- 仙台の歴史を知り地理と一致させる(心の財産になる)
- 郷土を知るイベントの実施
- 行政の方とのツアー
- 仙台出戻り制度をつくる
- 仙台公認ユーチューバーで主張を強める
- 仙台通と散歩する

### ④市民が郷土愛を醸成し「仙台の良さを発信する」ために官民連携で出来ることは何か？

- 仙台市民の日を制定
- 郷土教育の充実
- 市民参画型プロモーション(他都市へ)
- 車がなくとも移動できるまちづくり
- 「仙台ならでは」を広める

### ③全国と比較し、日本一、官民連携が図られた仙台は、どんな状態だと思うか？

- チャレンジした方が評価される
- 新たなチャレンジがしやすい環境
- 交流をさらに深める会議の回数が多い
- コミュニケーションの回数が多い
- 官民間の共同で作る組織
- YEGを活用してもらえ土壌
- 毎月風会議
- 簡単に連絡が取れる状態

### ④③を実現し、互いの共通目標や課題を共有するためにどの様な交流があれば良いか？

- LINEのような簡単なつながりがある
- ポータルサイトの作成
- 土業に情報を提供する機会をつくる
- 会社に人材を派遣させていただく
- 毎月風会議
- 常に親しみのある交流が取れるオフィシャルな場がある

## ■伊達な風会議2023の様子



### — シンポジウムは伊達な風会議とは何が違うのか？

仙台YEGとして各行政の職員の方との交流を図る伊達な風会議は、継続的に行っていく予定である。だがそれは仙台YEGの事業であり、仙台YEGが主体となった事業であるゆえ、仙台YEG側の都合が多いと考えている。

シンポジウムでは、行政の方々にとって都合の良い時間、時期を設定し、仙台YEGがつなぎ役として、各行政との調整などを行い、互いの施策を知り、実行する身近な存在と認識をしていただきたいと考えている。シンポジウム実現が容易ではないことは理解しているが、取組みを始めるところがスタートだとも認識している。また、YEG企業側も行政側の課題を聞くことで、街の課題が自分事化され、シビックプライドの醸成にもつながる。

まずは、仙台YEGとの連携強化や月1度行われる委員会へご参加いただき連携を模索するところから令和6年度は行いたいと考えている。

# 結びに

令和5年度政策提言

## シビックプライドの醸成

提言内容

- ① 仙台の未来を考える「仙台市民の日」の制定
- ② 地元企業に対する「地産地消」支援と「地産外商」支援
- ③ 各行政の課題解決策や施策を共有する「シンポジウム」の開催

仙台YEGとして5回目となる政策提言書では上記の通り、シビックプライドの醸成を目的に3つの要素を提言させて頂いた。委員会活動の初期に「未来志向で考えたときに、どのようになれば素晴らしい仙台市になるか」という部分から議論がスタートし、一年間の活動を行ってきた。

地域と、我々を含んだそこに住まう市民にとって、シビックプライドの醸成はポジティブな効果を及ぼすものだと確信している。

本提言が、仙台市民に仙台を「知ってもらう」機会として機能し、仙台や宮城を他人事ではなく自分事となる、シビックプライドが醸成されるきっかけになることを祈る。

仙台商工会議所青年部  
令和5年度 副会長 早坂勇人



## 総 評

これまで地域経済の大きく影響を残してきた新型コロナウイルスが5類に移行し、インバウンドを含めた人流が活性化する中、YEGの綱領でも掲げる地域の経済的発展と豊かで住み良い郷土づくりに仙台YEGが提言すべきことは何かを、年度当初より考え続けてまいりました。

仙台商工会議所青年部(以降仙台YEG)では、令和元年度より過去4度の政策提言活動を行い、本提言書が仙台YEGとして5度目の提言書となります。まずは過去を振り返り、我々仙台YEGがいかにかこのコロナ禍を乗り越えてきたか、その時の提言内容や活動、スローガン等をおさらいする中で、地域に対する市民としての強い誇りや行動、想いが今後のグローバルな環境に勝ち抜く武器になり得るのではないかと思います、シビックプライドの醸成というキーワードが一つの柱として出来上がりました。

キーワードも産みの苦しみということではございませんが、6月1日に実施された岡山市民の日視察事業、9月には伊達な風会議、毎月の委員会、行政関係者の皆様との交流を通じ早坂啓委員長をはじめ副委員長、委員会メンバーが一生懸命汗をかき、見出した提言となります。

本提言は継続性が重要な要素とはなりますが、今後も青年経済人としての熱量やアイデアを加えながら、提言実現のために行政の方々との交流を深めていければと存じます。その結果仙台という街が、力強く飛翔する都市仙台づくりの一助となることと信じて。

最後になりますが、本提言書を作成するにあたりご尽力をいただきました東北経済産業局、宮城県、仙台市の各行政の皆様、仙台商工会議所の皆様、守川会長をはじめ仙台YEGのメンバーの皆様へ衷心より厚く御礼を申し上げます。

## 行政交流委員会 副委員長 後記

**今** 回の提言につなげるにあたり、行政の方との意見交流の機会である伊達な風会議を開催しました。行政の方々と立ち位置は違えども、課題の認識や地域をよくしようという思いは共通していて、個々に動くよりも官民連携して動くことで、より効果の高い施策を実行し地域を良くしていけるという確信が持てました。

井ヶ田 健一

**政** 策提言書作成の主務を担わせて頂きました。政策提言書の作成活動を介して、仙台には地域に想いをもって・熱量高く活動されている方がたくさんいらっしゃることに改めて気づかせて頂いています。本提言が、地域を想う方をさらに増やしていくきっかけになったならば、これ以上嬉しいことはありません。

菅原 大

**冒** 頭にも挙げた地域関心の低下による人口流出は全国の地方自治体が同様に直面している課題だと思います。行政の皆様と我々仙台経済人が手を取り、シビックプライドの醸成をする事でこの課題を突破できると信じております。この提言で一人でも仙台市を想う市民の方を増やすことが出来れば幸いです。

比嘉 庸貴

会 長	守川 雷太	ネットヨタ仙台株式会社
副 会 長	早坂 勇人	社会福祉法人チャレンジドらいふ
専務理事	菊地 真由美	株式会社オルプロート
委 員 長	早坂 啓	株式会社サクラボ
副委員長	井ヶ田 健一	お茶の井ヶ田株式会社
副委員長	菅原 大	リージョンズ株式会社
副委員長	比嘉 庸貴	OneWay株式会社
委 員	阿部 誠	ブイ・シー・エスアーガシア
//	石井 健太郎	株式会社桜井薬局
//	出雲 理祐	株式会社奥村組 東北支店
//	伊藤 直之	WIDEFOOD株式会社
//	岩住 浩一	株式会社ワンイズム
//	及川 久美子	虹のさかなプロダクション
//	大森 健介	株式会社豊
//	小原 一恭	キングラントウホク株式会社
//	勝又 源紀	株式会社アイショウ
//	金 賢汰	イーブロードコミュニケーションズ株式会社仙台支店
//	齊藤 良太	株式会社Wasshoi Lab
//	佐々木 良太	ディップ株式会社 仙台オフィス
//	笹沼 悠司	アイエ書店株式会社
//	佐藤 誠士	株式会社エス・キャスト仙台
//	佐藤 幸	株式会社PRIME OCEAN
//	佐藤 大亮	株式会社プレスアート
//	庄司 吉毅	株式会社エイトステップ
//	関村 学	タスキー税理士法人
//	鷹觜 大雄	エス・アイ・ロジ株式会社
//	高橋 進伍	ビーエッチ株式会社
//	芳賀 秀太	ソニー生命保険株式会社 仙台LPC第4支社
//	福留 秀基	スパークル株式会社
//	松橋 恵介	株式会社ゴジュウマル
//	松原 史敏	株式会社エムケーコーポレーション
//	三浦 大	株式会社丸山運送
//	宮川 卓士	株式会社庄定
//	山下 由恵	NTTアーバンバリューサポート株式会社
//	渡部 健	株式会社ケンジン
監 事	清川 晋	仙台中央タクシー株式会社
監 事	本山 泰督	本山振興株式会社

# Index Sendai YEG 2023-2024 Policy Proposals

p.01	ごあいさつ
p.02	はじめに
p.03	令和5年度政策提言書作成に至る経緯
p.04	シビックプライド醸成がなぜ必要なのか？
p.08	シビックプライド醸成のための具体的な提言
p.21	総評

令和5年度スローガン

**発せよ!**  
～わたしの意志、  
みんなの力～



令和5年度 仙台商工会議所青年部